地質標本館　おすすめ標本ストーリー

地質標本館の正面には切株状の化石が3つ並んでいます。これは珪化木というもので樹木が化石になったものです。木の化石(厳密には違う)に石炭がありますが、石炭は木から水分が抜けて炭素だけになったものです(石炭化)。しかも脱水の過程で組織が溶けて残っておりません。珪化木は細胞を珪酸が埋めたもので組織が残ります(珪化)。この標本のように、一つの化石でも、石炭化しつつ、別のところでは珪化していることもあります。

この珪化木は北海道美唄の始新世の湿地の地層(約4000万年前)から産出しました。珪化木の下には黒いものが層状になっていますが、これは湿地のコケや落葉が石炭になったものです。年輪が曲っていることがありますが、これは生きている時のもともとのネジレと地圧で局所的に曲ったものとあります(わかりますか?)。

この珪化木はスギ科(針葉樹)のなかまで、学名の *Taxodio-* は「ヌマスギの」、*xylon* は「木材」という意味です(キシリトールのキシリは木材のこと)。直訳すれば「ヌマスギ様木材」という意味になりますが、学名は内実と違うことがあるので注意が必要です。実際、後半の *matsuiwa* は九州でこの化石が発見された時に、松の根っこが岩になったということから付けられていますが、この珪化木はマツではありません(近縁ではありますが)。珪化木の展示は、標本館正面のほか、2F廊下にもあります。

(地質標本館室 辻野匠)